

# 遺愛学院創基145周年記念講演会について

記念式典前日の4月19日（金）13:30-14:30に遺愛学院の講堂と会議室で創基145周年記念講演会を開催しました。講堂ではアメリカ在住のUCLA医学部終身名誉教授の菅原正博氏（奥様がK18回菅原久美子さん）が「人の生命の誕生について」と題して、会議室ではカナダ在住のK5回小崎京子氏が「私のカナダ移住 半世紀の記憶」と題して講演して下さいました。希望者対象の講演会でしたが、菅原さんの方は函館中部高校からの参加者を含めて約140名、小崎さんの方は約50名の参加で、とても盛会でした。

講演会に参加した生徒さんの感想の一部を紹介します。菅原氏の講演については「すごく面白い話でした。今日は、生命の誕生の話から私たちの身の回りにも関係している認知症や癌の話など専門的な話から日常的なことまで学ぶことができとても良かったです。脳細胞の死の話から認知症へとつながり、その最善の治療法が運動であることに驚きました。癌に関しては、腸内細菌が重要な働きをしていることが初めてわかり、逆に抗生物質がその細菌を殺してしまうことまでわかりました。とても楽しかったです。ありがとうございました。」「今日は人体に起きている様々な現象や性質について、ユーモアを交えながらたくさんの方面からお話を展開していただき有難うございました。世界最高峰の大学教授をこうして地元で拝聴できたこと、とても光栄に感じましたし、深い感銘と刺激を受けました。私も曾祖母が認知症を患っていたので、それに関しては考えさせられることが多かったです。『Use



it or Lose it』のお言葉、とても心に残っています。本当に貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。」「今回、生命の誕生についてのお話が聞けると知りとても楽しみにしていました。また、私自身医師になりたいと長年思っている

ので、現役の素晴らしい医師の生の声が聞くことができると思い、わくわくしていました。そしてお話を聞き、自分の将来への思いが強くなったと同時に医療に対する新しい感覚を得ることができました。それ以外にも人生において重要なことも学ぶことができました。遺愛にとって記念の年でもあり、

私にとっても高3という重要な時期にこのような素晴らしい講演を聞くことができ、本当に良かったです。」

小崎氏の講演については「私は今まで海外で働くことなど考えたこともなかったので、日本で働いていると活躍が十分できないと感じ、単身海外に飛び込もうと決めた小崎先生の勇気、野心に感動しました。小崎先生のお話を聞いたことで、改めて英語力の大切さを実感しました。先生がおっしゃっていたように日頃から積極的に英語を使うように心がけようと思います。そして私も先生のように自分たちの言語や文化に誇りをもち、将来海外に発信していけるような人になりたいです。」「楽しいお話を聞かせていただいて、とても勉強になりました。今の時代は昔の時代に比べてやりたいことが自由にできる時代だということに改めて気づかされました。お話を聞いていて、色々な場所で働いたり、応募を積極的にしたりなど、やはり経験することは大切だなと感じました。日本語教師のお仕事をされている方のお話を聞くのが、私にとって初めての機会

だったので、私の中の選択肢も広がったなと強く感じています。将来は英語や他の言語を使って働きたいと考えています。間違ふことを恐れずに、自分の将来の夢に向けて、新



たなことに積極的にチャレンジしたいです。本日は貴重なお話ありがとうございました。」「小崎さんの講演、素晴らしかったです。小崎さんは素敵な方でした。小崎さんが遺愛で過ごしていらっしゃった時代は、私には想像もつかないほど現代と違っていたのだと思います。もちろん海外なんて、ほとんどの日本人にとって未知の世界だったはずですが、そんな時代にカナダに飛び出した小崎さんは、本当に度胸がある方だなあと感じました。私も見習いたいです。海外で仕事をすることや、海外に移住することに対して、私はすごく憧れています。小崎さんはご自分で『向こう見ず』な性格だとおっしゃっていましたが、向こう見ずに何事にも挑戦することで、人生はもっと楽しいものになるのだと思いました。」

両講演とも、生徒の皆さんにはとても刺激的で、新たな希望をもって一歩踏み出せるような内容でした。菅原先生、小崎先生どうもありがとうございました。

2019年4月19日(金)